

手術後リンパ浮腫治療に用いる弾性着衣装着に関する検証と臨床応用

成人看護学領域 城丸 瑞恵 教授



Q. この研究に取り組んだ背景は何ですか？

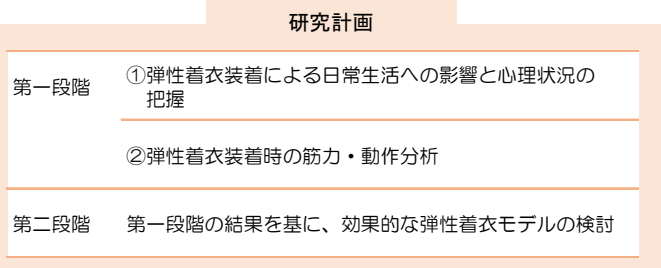
A. 約7年前から乳がん・子宮がんの方々の患者会「ベニバナの会」のお手伝いをしています。この患者会では、リンパ浮腫や感染に関する学習会を行ったり、講師を招いてヨガなどを行っています。また、希望者に体組成計を用いて筋肉量・推定骨量などを測定することもあります。この患者会に参加されている方々から、手術後に弾性着衣を装着して「暑くて夏は大変」「汗をかくとかゆみができる」「腱鞘炎になった」という声が聞かれました。リンパ浮腫の治療のために使用する弾性着衣が、患者さんにとって新たな苦痛をもたらすことがわかり、改善の方法はないか検討したいと考えたことが、この研究に取り組んだ背景になります。弾性着衣には乳がんなどの手術後に上肢に使用する弾性スリーブと婦人科がんなどの手術後に下肢に使用する弾性ストッキングがあります。



弾性スリーブ

Q. この研究の目的、方法について教えてください。

A. 研究は、表に記載されているように二段階で実施予定です。乳がん・子宮がんの手術後にリンパ浮腫を発症した方に調査を行って弾性着衣を装着する上での具体的な困難を明らかにします。その後、調査協力者の弾性着衣装着時の筋力・動作分析などを行います。これらの結果を基に、効果的な弾性着衣の装着方法を提案して、調査協力者の方に意見をいただき、装着方法のモデルを提示します。この研究の特徴は、当事者である調査協力者を中心に学内外の看護師・作業療法士・理学療法士などの専門家が共同で研究を進めることです。研究を進めるにもチームワークが大事ですが、チームで研究ができる環境が本学にあります。



共同研究のメンバー



筋電図測定

Q. これまでの主な研究成果と将来の展望を教えてください。

A. 乳がん・婦人科がんの手術後にリンパ浮腫を発症した調査協力者に面接調査をした結果、「弾性着衣を脱いだら粉がふくように乾燥した」「拇指から手首が脹れている」など皮膚トラブルや装着による障害の具体的な状況が明らかになりました。また、面接調査をした協力者が弾性着衣を装着する際の上肢の筋活動に関する分析を行った結果、筋活動量の増加が確認され、装着に関連した苦痛が客観的にも示唆されました。今後は、調査協力者を増やしてより正確な結果を得るためにデータを蓄積したいと考えています。これらを明らかにすることで、弾性着衣装着による苦痛の緩和や、弾性着衣を使用している方々のQOLの向上に役立つと期待しています。

もう少し知りたい!と思った方はこちらへ

- 看護学科成人看護学 URL

➡ https://web.sapmed.ac.jp/hokegaku/ns/ns_seijin.html

- 大学院保健医療学研究科看護学専攻 URL

➡ https://web.sapmed.ac.jp/hokegaku/g_ns/g_ns_seijin-kenkou.html